

生きる力

SHINGON

特集

布施ふせ淨じよう慧え猊げい下か 重任じゆうにん奉ほう告こく法ほう要よう

生きる力 SHINGON

Vol. 116



弘法大師 空海
ご誕生 1250年
令和5年(2023年)



特集

ふ せ じょう え げ い か
布施浄慧猊下
じゅう にん ほう こく ほう よう
重任奉告法要



- 1 集会所に集まる布施猊下と菩提院結衆
- 2 手輿に揺られ金堂へと進む布施猊下
- 3 僧列は雅楽の調べとともに進みます
- 4 金堂は満堂の参列者のもと法要が行われました
- 5 重任奉告文を奉読される布施猊下

5 4

令和五年十月十二日、総本山智積院において布施浄慧猊下の「重任奉告法要」が行われました。

布施浄慧猊下は、令和元年に真言宗智山派管長総本山智積院化主（智積院の住職）第七十二世に就かれており、令和元年に智積院化主となられた際には「晋山式」が行われました。新たな住職が就任されることを、山に晋むと書いて晋山（しんざん）といいます。現在では智積院化主は一期四年の任期であり、布施浄慧猊下におかれては、令和五年よりその任を重ねられておいでです。そのため、晋山に対して重任といい、この日行われたのが智積院金堂のご本尊である大日如来さまのご宝前において、宗祖弘法大師、中興の祖興教大師を始めとする祖師に重任を奉告する、重任奉告法要です。

爽やかな秋の日差しが、総本山智積院の本坊から金堂へと続く石畳を照らします。化主猊下の住房である本坊から、布施浄慧猊下を手輿（たごし）にいただき、僧侶の列が金堂へと続いてゆきます。金堂には真言宗各派管長をはじめ、宗内役職員や僧侶、檀信徒が集結し、布施浄慧猊下を導師に、本宗の高僧である菩提院結衆（ぼだいいんけつしゅう）らによって法要が行われました。

令和の世を迎え、五年の月日が過ぎゆきます。時代のはじまりとともに疫病が影を落とした私たちの生活にも、やっと光明が差ししてきました。新たな世の黎明がこれから始まります。



総本山智積院の伝灯

宗祖弘法大師空海さまがご誕生されて千二百五十年を迎えた令和五年、布施浄慧親下が総本山智積院化主に重任されました。お大師さまが立宗された真言宗の法灯は、途切れることなく今日まで続いています。ここでは、祖師の足跡を訪ねながら、連綿と続く智積院の伝灯について見てゆきましょう。

宗祖弘法大師空海

お大師さまは、宝亀五年（七七四）讃岐国（現在の香川県）に生まれます。十五歳で上京し、十八歳で大学へ入りますが、役人になるための学問ではなく、人々を救う仏教へと惹かれ、大学を辞し修行の道へと入ります。山林で修行し、また多くの経典を学ぶなかで、密教経典である『大日経』^{だいにちぎょう}と出会います。しかし、当時の日本にはその深い教えを知る者はだれもおりませんでした。そこで、お大師さまは師をもとめて唐（現在の中国）へと渡る決意をします。延暦二十三年（八〇四）、留学僧となったお大師さまは、幾多の苦難に遭いながらも唐へと渡りました。そして、正当な密教の教えを受け継いだ恵果阿闍梨^{けいこあじかり}と出会います。それからわずか三ヶ月ですべての教え



弘法大師空海御影

智積院蔵



興教大師覚鑑御影

智積院蔵



を授かり、密教の正当な後継者となるのです。二年の歳月を経て帰国したお大師さまは、弘仁七年（八一六）、高野山に修行の道場として金剛峯寺を開創し、弘仁十四年（八二三）には東寺を朝廷から賜り、真言宗を立教開宗されました。

さまざまな活躍をしたお大師さまは、承和二年（八三五）、高野山奥之院にてご入定されます。その後、延喜二十一年（九二一）、醍醐天皇より「弘法大師」の諡号が贈られました。

中興の祖 興教大師覚鑑

お大師さまが恵果阿闍梨より授かった真言密教の教えは、お大師さまの弟子によって脈々と受け継がれてゆきます。しかし、お大師さまのご入定から三百年が経つころ、高野山は衰退の危機にありました。そこで、真言宗再興のために尽力されたのが、興教大師覚鑑さまです。

覚鑑さまは、嘉保二年（一〇九五）、肥前国（現在の佐賀県）に生まれ、十六歳で出家します。そして高野山で真言教学を学び、長承三年（一一三四）には高野山金剛峯寺の座主（最高位）にまで上り詰めます。座主となった覚鑑さまは、お大師さまの教えを再興するために、さまざまな改革を行うのです。

しかし、その改革を快く思わない一部の僧



覚鑓さまの眠る根来寺奥之院



根来寺菩提院

侶の反発にあい、対立が生まれます。その対立を収めるために、覚鑓さまは座主を辞し、高野山を降りることになりました。新たに移られた地が同じ紀州の根来山です。

覚鑓さまは、根来山の整備に力を入れますが、康治二年（一一四三）病により入滅されました。覚鑓さまを荼毘に付した荼毘所には菩提院が創建され、覚鑓さまの命日に僧侶が集い、報恩講が行われるようになりました。その流れを汲むのが、現在の智積院に続く「菩提院結衆」であり、本宗の高僧で組織された菩提院結衆らによって、覚鑓さまの遺徳をしのぶ冬報恩講や、智積院の大法会が執り

行われています。

覚鑓さまは元禄三年（二六九〇）、東山天皇より興教大師の諡号を賜りました。

智積院第一世 玄宥僧正

覚鑓さまが興した根来山は真言教学の学びの場として大いに興隆します。そのなかで、頼瑜や聖憲といった学僧が覚鑓さまの流れを汲む真言教学を大成させてゆきます。しかし、天正十三年（一五八五）に天下統一にのりだした豊臣秀吉は根来山の強大な寺勢を危惧し紀井攻めを決行。二千七百あった堂宇は

いくつかの堂宇を残してことごとく焼き払われてしまいます。

この時、根来山にあった智積院の学頭だったのが玄宥僧正です。玄宥僧正は、根来山が灰燼に帰すと、数百の学徒を連れ高野山へと逃れます。しかし、高野山に留まることもできず、安住の地をもとめて各地を流転するのでした。そして、慶長六年（二六〇二）、徳川家康より京都東山豊国社の領地と堂宇を与えられ、現在の地に智積院を再興するに至るのです。

智積院の興隆

再興された智積院は徳川幕府の庇護のもと、次第に興隆してゆき、教学研鑽の場として多くの僧侶が集いました。この教学研鑽に欠かすことができないのが「論義」です。論義とは、問答によって教義を深めていくもので、一人前の僧侶となるために欠かせないものです。特に智積院第三世日誉は、徳川家康の御前で論義を行い、高い評価を受けるなど、「学山智山」としての名声を高めています。智積院第七世運徹は、「近代師」とも尊称されるように智山の学風を樹立し、さらには智積院境内の整備を行うなど、めざましい活躍をされました。

このように、智積院では多くの学匠を輩出し、最盛期には千人を超える学僧が集い「朝

粥をすすする音が七条大橋まで聞こえてきた」という言い伝えが残るほど興隆します。

そして今日へ

動乱の明治期を迎え、真言宗智山派を公称してからも、総本山智積院では、お大師さまの教えが師から弟子へと連綿と伝わってきました。真言宗に伝わる実践上の所作法を受け

継ぐ流れを法流といいますが、智積院には報恩院流と中性院流という法流が、どちらも大切に相承されています。この相伝の象徴ともいえるのが、冬報恩講の際に一般にも拝覧が許される「黒皮籠」であり、中性院流相承の象徴として智積院歴代化主に今日まで代々受け継がれています。

令和五年、布施浄慧猊下が真言宗智山派管長総本山智積院化主第七十二世を重任されま

した。真言宗智山派の総主であり、最高の地位にある化主猊下のことを「能化」といいますが、この尊称には「能く衆生を教化する者（私たちに教えを説き導く最高の指導者）」という意味があります。お大師さまから続く真言密教のみ教えは、布施浄慧猊下から全国の真言宗智山派僧侶へと受け継がれ、菩提寺の僧侶から檀信徒の皆さまにまで伝わっていくのです。

（智山教化センター 中嶋亮順）



運敵蔵 現在でも智積院境内に残る運敵蔵には、運敵僧正の坐像が祀られています。



智積院金堂へと続く参道の傍らに佇む智積院第一世 玄宥僧正像。



布施浄慧猊下

先志次命

今日の法語

「志を先とし、
命を次とす」

原 祥 壽

(東京都八王子市 東光寺住職)

今お唱えしている経典も、今拝んでいる仏の像も、そのほとんどが五千キロ以上離れた天竺(インド)から、多くの仏教者によってもたらされました。

言葉にすると無味乾燥なものです。しかし、灼熱の沙漠に身を焦がし、狂暴な禽獣に喰われてもなお、命を賭して仏法を伝えようとしてきました。その事実、その志が私の心奥を静かに鳴動させます。

お経をお唱えする時、仏さまを拝む時、かつて志を先とし、命を次とした仏教者たちへ想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



目次

特集 布施浄慧祝下 重任奉告法要	2
今日の法語 (原 祥壽)	8
お大師さまとご信仰 (田村宗英)	10
梵字よもやま話 (小峰智行)	11
智積院の修行生活 (長谷川優)	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう (平川真海)	14
日本の四季を切り取る十七文字 (星野高士)	15
総本山の便り	16
ニンゲンのつくり方 (中嶋亮順)	18
ごくらくらくご (三遊亭竜楽)	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
寺院建築の心 (菊池恭二)	24
十巻章—真言宗の教えを紐解く— (駒井信勝)	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる (渡邊淳司)	28
花に聞く 仏に聞く (佐々木隆元)	29
私のお大師さま ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko (内藤理恵子)	30
十善戒と生きる力 (佐竹隆信)	31


 弘法大師 空海
ご誕生 1250年

宗祖弘法大師ご誕生1250年ロゴマーク

表紙

 桜に包まれる奇景
群馬県


日本三大奇景のひとつでもある妙義山。南面の麓には約5000本もの桜の木が植えられた県立公園「さくらの里」が広がっている。荒々しい山の岩肌と、霞のようにふんわりと咲く桜のコラボレーションは山水画を思わせた。

P5

 煌めく草の芽
埼玉県


早朝、地元を散歩していると、道路脇の草むらがふと目に入った。草の芽を濡らす水滴が陽光を受けて煌めいている。短い時間だけ現れる自然の宝石。朝から素敵なものを見ることができて、幸せな気持ちで家路についた。

撮影・解説／竹本りか

平成十年十二月十六日第三種郵便物認可「生きる力S.E.M.O.N」第一一六号 令和六年三月一日発行 年四回(六月・九月・十二月・三月の一日)発行 定価一〇〇円(税込)
発行人／芙蓉良英 編集／智山教化センター 発行所／〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町九六四 総本山智積院内 真言宗智山派宗務庁

智積院会館のご案内

洋室や和洋室など多様なお部屋で快適にお過ごしいただけます
(1泊朝食付 ¥9,000～ 宿泊税・消費税込／夕食別途 ¥3,300～ 消費税込)。



和室A



和洋室A

世間の喧騒を離れて、400年前から変わらぬ、朝のお勤めへのご参拝、僧侶による名勝庭園や長谷川等伯一門の国宝の障壁画のご案内など、非日常をぜひご体験ください。



夕食 ¥5,500

※令和6年2月現在、令和6年8月分までのご予約を受け付けております。



外観

お問い合わせ

宿坊 智積院会館 HP

宿坊 智積院会館
電話 075-541-5363

ご予約は、お電話または智積院会館 HP から



京都

総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町 964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

真言宗智山派 総本山智積院

合掌

「令和六年能登半島地震」による被害を受けた皆さまへ
令和六年一月一日に発生した石川県能登地方を震源とした地震により、被害を受けた地域の皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。お亡くなりになられた方のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆さまに衷心よりお悔やみ申し上げます。
被災された地域の日も早い復旧をご祈念申し上げます。

仏生会(花まつり)

4月8日 10時より(参拝無料)

こども花まつり

4月7日 11時より(参加無料)

智積院阿字観会

毎月12日 14時より(受付13時30分より)

※8月と12月は8日

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・)

要事前申込 定員20名

写経のつどい

毎月21日 13時より

於 智積院金堂地下ホール

(納経料千円・要事前申込 定員50名)

東京

総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

真福寺阿字観会

第4火曜日 15時より

(受付14時30分より)

於 本堂(無料・要事前申込・定員30名)

3月25日(月)

※4月以降の開催日については

お問い合わせください。

愛宕薬師ご縁日

3月8日(金) 12時より

4月8日(月) 11時30分より

※花まつり灌仏会法要

5月8日(水) 12時より

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭 千円)

3月21日 三遊亭

4月18日 談志一門会

5月16日 三遊亭

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院